

はじめに

埋蔵文化財は、わが国の各地域に普遍的に存在する、豊かで生き生きとした歴史的な財産である。こうした地域の歴史を証言する埋蔵文化財は、未来に伝えるべき存在であり、現代においてそれを失うことは極力避けなければならない。したがって、開発事業などとの円滑な調整を図りつつ、また国民の理解と協力を得ながら、それらを適切に保存し、活用することが、埋蔵文化財保護行政上、重要な課題となる。

埋蔵文化財の発掘調査は、埋もれた遺構と遺物の存在およびその相互関係を明らかにし、地域における歴史的意義を把握するうえで必要不可欠なものである一方、それがどのような目的であれ、常に解体や現状の改変をとまなうという側面が生じる。したがって、発掘調査には、高い精度と適正な内容が要求されるとともに、そうした知識と技術を有する発掘担当者の資質と充実した体制の整備が強く求められる。

昭和41年11月、上記のような事情と目的を勘案して、文化財保護委員会事務局(現文化庁)は『埋蔵文化財発掘調査の手びき』を刊行した。これは、以後40年の長きにわたり、発掘調査における指針としての意義を保ちつづけたが、その後の発掘調査件数の急増と規模の増大、そして調査技術と考古学や関連分野の研究の進展により、現状に応じた内容への改訂が求められるよう

になった。

そこで、文化庁が設置した「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」では、平成16年10月、埋蔵文化財がもつ歴史的な情報を的確に把握するため、発掘調査が一定の水準を保って達成できることを目的として、その方法と内容に関する標準を定めた『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準』を報告した。この中で、実際に発掘担当者がこの標準にしたがって適切な発掘作業および整理等作業をおこなえるよう、全国で汎用できる手引書の必要性が指摘され、それを受けて、このたび本書の刊行にいたった次第である。

本書の作成は、文化庁が独立行政法人国立文化財機構（平成18年度までは独立行政法人文化財研究所）奈良文化財研究所に委託して、『発掘調査のてびき』作成検討委員会およびその作業部会を開催し、原稿執筆から編集作業までを各委員とともにおこなった。関係者に心から感謝の意を表したい。

平成 22 年 3 月

文化庁文化財部記念物課

はじめに	
例言	
第Ⅰ章 埋蔵文化財の保護	1
第1節 埋蔵文化財の保護と発掘調査	2
1 埋蔵文化財の意義と その保護	2
2 埋蔵文化財保護行政と 発掘調査	2
第2節 埋蔵文化財の発掘と「発掘調査のてびき」	5
第Ⅱ章 集落遺跡概説	7
第1節 序論	8
第2節 旧石器時代	10
第3節 縄文時代	15
第4節 弥生時代	22
第5節 古墳時代	29
第6節 古代	36
第7節 中・近世	43
第Ⅲ章 発掘調査の準備と運営	49
第1節 埋蔵文化財包蔵地	50
1 埋蔵文化財行政の役割	50
2 埋蔵文化財包蔵地の範囲	50
3 把握と周知の具体的方法	51
コラム くぼみとして残った遺構	55
第2節 調査計画の策定と準備	56
1 調査計画	56
2 機材の準備	58
第3節 発掘作業の運営と安全管理	62
1 発掘作業の運営	62
2 安全管理	63
第4節 測量基準点の設置	70
1 平面直角座標系と方眼北	70
2 基準点測量と留意点	72
3 トラバース測量	74
4 水準測量	76
コラム 世界測地系への移行	80

第5節	発掘前の地形測量	81		
	1 地形測量の意義と手順	81	2 地形測量の方法	81
第6節	発掘区とグリッドの設定	85		
	1 目的と意義	85	2 標準的グリッドとその表示法	85
第7節	遺跡の探査	88		
	1 目的と意義	88	3 物理探査の利用	90
	2 地図・写真・画像の利用	88		
第IV章 土層の認識と表土・包含層の発掘 93				
第1節	遺跡における土層の認識	94		
	1 土層とその構成物	94	3 土層の観察と記録	99
	2 土層の区分	95		
第2節	表土の掘削と包含層の発掘	104		
	1 表土の掘削	104	2 包含層の発掘	105
	コラム 層相断面図	110		
	◆ 土層をより深く理解するために	111		
第V章 遺構の発掘 117				
第1節	遺構検出の方法	118		
	1 遺構検出の手順と方法	118	3 重複する遺構の検出	121
	2 複数の遺構面の発掘	120	4 遺構掘り下げの準備	122
第2節	遺構の掘り下げと遺物の取り上げ	123		
	1 遺構の掘り下げ	123	3 掘り下げの方法と留意点	125
	2 埋土の観察と記録	123	4 遺物の取り上げ	128
第3節	竪穴建物	131		
	1 建築構造	131	3 竪穴部・地表部の発掘手順	144
	2 竪穴部・地表部の属性	136	4 焼失竪穴建物	152
	コラム 柄鏡形竪穴建物	143	コラム 竪穴建物と埋葬	156
	コラム カマドの発掘手順	148	コラム 周溝をもつ建物	157
	コラム 焼失竪穴建物の炭化材	153		
第4節	掘立柱建物	158		
	1 上部構造	158	3 掘立柱建物にともなう遺構	176
	2 柱穴の構成と属性	169	4 掘立柱建物の発掘手順	180
	コラム 竪穴・掘立柱併用建物	188		

第5節	その他の建物	189			
	1 礎石建物	189	2 壁建ち建物・土台建物・		
			平地建物	191	
	コラム オンドル	193			
第6節	土坑	194			
	1 基本的な発掘手順	194	3 集落内の土坑墓	196	
	2 落とし穴	195	4 さまざまな土坑	197	
	コラム 水室	199	コラム トイレ	200	
第7節	溝	201			
	1 溝の構造	201	2 溝の発掘手順	203	
第8節	井戸	206			
	1 機能と構造	206	2 井戸の発掘手順	207	
第9節	生産関連遺構	212			
	1 集落と生産遺構	212	3 農業関連ほかの遺構	219	
	2 手工業関連の遺構	212			
第VI章	遺構の記録	225			
第1節	実測	226			
	1 実測の理念と方法	226	3 実測の具体的手順	227	
	2 過去の実測方法と その問題点	226	4 写真測量	236	
			5 三次元レーザー測量	239	
第2節	記録と情報	241			
	1 記録・情報の意味	241	3 日誌・遺構カードと属性表	243	
	2 記録様式の統一と標準化	241	4 記録・情報のデジタル化	248	
第3節	写真	250			
	1 文化財写真の意義	250	3 遺構の撮影	253	
	2 撮影機材	251	4 撮影後の処置	261	
第VII章	自然科学調査法の活用	263			
第1節	自然科学分析と試料採取	264			
	1 分析の実施計画	264	3 試料採取の方法と留意点	268	
	2 分析対象となる資料	265			
第2節	脆弱遺物の取り上げ	274			
	1 遺物の取り上げ	274	2 取り上げ後の処置	277	
第3節	土層・遺構の転写と切り取り	278			
	1 土層の転写	278	3 遺構の切り取りと型取り	280	
	2 遺構の立体転写	280			

英文目次	281
图 版	285
参考文献	293
图表出典	295
索 引	303

例言

第Ⅰ章 整理と報告書作成の基本方針	1
第1節 発掘調査報告書	2
第2節 整理等作業の流れ	3
第Ⅱ章 記録類と遺構の整理	5
第1節 発掘記録類の基礎整理	6
第2節 遺構・土層の整理と集約	8
第Ⅲ章 遺物の整理	11
第1節 洗浄・選別・注記・登録	12
1 目的	12
2 洗浄	12
3 選別	14
4 注記	14
5 登録	15
コラム 遺物分類の考え方	16
第2節 接合	17
1 目的	17
2 土器・土製品の接合	17
3 石器・石製品の接合	18
4 金属製品・木製品の接合	18
第3節 実測の理念と方針	19
1 実測の理念	19
2 実測の基本方針	19
コラム 考古学と計量	20
第4節 土器・土製品の観察と実測	21
1 種類	21
2 観察	21
3 実測	31
4 拓本	37
◆ デジタル図化	40
第5節 石器・石製品の観察と実測	42
1 種類	42
2 観察	46
3 実測	52
第6節 金属製品の観察と実測	55
1 種類と観察	55
2 実測	55
第7節 木製品・大型部材の観察と実測	60
1 種類	60
2 木製品の観察	60
3 木製品の实測	67
4 大型部材の観察	69
5 大型部材の実測	71

第8節	自然科学分析	74
1	自然科学分析の位置づけ	74
2	微細遺物の採集法	75
3	動植物遺存体と古人骨の分析	77
4	遺物の構造調査	80
コラム	非破壊分析	85
第9節	復元	86
1	目的	86
2	型取りと成形・整形	86
3	着色	88
第10節	写真	89
1	遺物の撮影	89
2	撮影機材	89
3	撮影の方法	93
4	撮影形式とライティング	95
5	さまざまな遺物の撮影	98
6	遺物写真の現像処理	103
第11節	遺物の保存処理	104
1	保存処理の必要性	104
2	保存処理前の作業	104
3	保存処理の方法	106

第IV章 調査成果の検討 109

第1節	遺構の検討	110
1	目的と留意点	110
2	遺構の分類	110
3	個々の遺構の検討	111
4	時期の推定	117
コラム	柱間寸法と尺度	119
第2節	遺物の検討	120
1	目的と留意点	120
2	遺物の分類	120
3	様相の把握	123
4	時期の推定	124
コラム	遺物の数量表示	126
第3節	調査成果の総合的検討	127
1	情報の整理	127
2	遺跡の評価	128

第V章 報告書の作成 131

第1節	構成と規格	132
第2節	文章の作成	136
第3節	図表の作成	139
第4節	レイアウトと編集	146
第5節	入稿と校正	152
コラム	色校正の基本	156
第6節	印刷と製本	157

第Ⅵ章 報告書の記載事項	159
第1節 報告書の構成	160
第2節 調査の経過	164
1 調査にいたる経緯	164
2 発掘作業の経過	165
3 整理等作業の経過	165
第3節 遺跡の位置と環境	166
1 目的	166
2 地理的環境	166
3 歴史的環境	167
第4節 調査の方法と成果	169
1 調査の方法	169
2 層序	171
3 遺構	175
4 遺物	177
5 自然科学分析	180
6 保存目的調査の報告	181
第5節 総括	182
第Ⅶ章 資料の保管と活用	183
第1節 記録類の保管と活用	184
1 記録類の保管	184
2 写真の保管	185
3 記録類の活用	187
第2節 出土品の保管と活用	188
1 出土品の保管	188
2 出土品の活用	190
英文目次	192
図版	195
付編	203
文化財保護法(抜粋)	204
行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準(報告)	210
出土品の取扱いについて(報告)	239
埋蔵文化財の把握から開発事前の発掘調査に至るまでの取扱いについて(報告)	248
埋蔵文化財の本発掘調査に関する積算標準について(報告)	259
出土品の保管について(報告)	271
埋蔵文化財の保存と活用(報告)	276
労働安全衛生法(抜粋)・同施行令(抜粋)・労働安全衛生規則(抜粋)	288
参考文献	290
図表出典	293
索引	301
おわりに	315

はじめに
例言

第Ⅰ章 遺跡の種類と把握	1
第1節 遺跡の種類	2
第2節 遺跡種類の把握とその意義	3
第3節 保存目的調査	6
第Ⅱ章 墳墓の調査	7
第1節 旧石器・縄文時代の墓	8
1 旧石器・縄文時代の墓概説	8
2 発掘調査の準備と計画	9
3 墓の構造と諸要素	10
4 発掘方法と留意点	10
5 遺物の整理	10
6 調査成果の検討	11
第2節 弥生時代の墓	12
1 弥生時代の墓概説	12
2 発掘調査の準備と計画	13
3 墓の構造と諸要素	14
4 発掘方法と留意点	15
5 遺物の整理	19
6 調査成果の検討	21
コラム 古人骨の取扱いと分析	24
第3節 古墳時代の墓	26
1 古墳時代の墓概説	26
2 発掘調査の準備と計画	27
3 墳丘・周濠・外表施設	32
4 竪穴系の埋葬施設	34
5 横穴系の埋葬施設	38
6 発掘方法と留意点	42
7 遺物の整理	60
8 調査成果の検討	69
コラム 木芯粘土室	40
コラム 装飾古墳	43
コラム 地下式横穴墓	59
第4節 古代・中世・近世の墓	75
1 古代・中世・近世の墓概説	75
2 発掘調査の準備と計画	77
3 墓の構造と諸要素	78
4 発掘方法と留意点	80
5 遺物の整理	82
6 調査成果の検討	83
コラム 末期古墳	84

第Ⅲ章 寺院の調査	85
第1節 寺院概説	86
1 古代寺院	86
2 中世寺院	89
第2節 発掘調査の準備と計画	91
1 寺院の特徴	91
2 遺跡情報の事前収集	92
3 試掘・確認調査による把握	94
4 測量と地区割り	95
5 調査計画の策定	96
第3節 寺院の建築構造	97
1 金堂・講堂・本堂	97
2 塔	97
3 門	99
4 回廊と僧房	100
5 その他の堂	101
コラム 湯屋	102
第4節 寺院遺構の諸要素	103
1 礎石建物	103
2 掘立柱建物	108
3 建物にともなう遺構	108
4 区画施設	111
5 付属施設	113
コラム 地鎮・鎮壇	115
第5節 発掘方法と留意点	116
1 礎石建物の発掘	116
2 建物構成の確認	118
3 瓦の分布と記録	119
第6節 遺物の整理	121
1 瓦 磚	121
2 土 器	128
3 仏像・仏具など	129
4 その他の遺物	131
第7節 調査成果の検討	132
1 遺構の検討	132
2 遺物の検討	133
3 調査成果の総合的検討	135
第Ⅳ章 官衙の調査	137
第1節 官衙概説	138
1 都 城	138
2 国 府	139
3 郡 衙	142
4 城 柵	144
5 古代山城	146
6 駅家・関	148
7 その他の官衙	150
コラム 神籠石と山城	151

第2節	発掘調査の準備と計画	152
1	官衙の特徴	152
2	遺跡情報の事前収集	153
3	試掘・確認調査による把握	156
4	測量と地区割り	157
5	調査計画の策定	157
第3節	官衙遺構の諸要素	159
1	建物	159
2	区画施設	161
3	祓所	165
第4節	発掘方法と留意点	166
1	建物の発掘	166
2	区画施設の発掘	167
	コラム 条坊と方格道路網	170
3	遺物の取り上げ	169
第5節	遺物の整理	171
1	出上文字資料	171
2	上器	176
3	瓦 磚	177
4	文房具	177
	コラム 木簡の解読	173
5	腰帶具	178
6	武器・武具	179
7	祭祀具	180
8	炭化穀類	181
	コラム 度量衡	182
第6節	調査成果の検討	183
1	遺構の検討	183
2	遺物の検討	185
3	調査成果の総合的検討	187
第V章	城館の調査	189
第1節	城館概説	190
1	城館の成立と展開	190
2	城館の発展	191
	コラム 東北の古代末～中世初めの城と柵	194
3	台場・砲台と西洋式城郭	193
第2節	発掘調査の準備と計画	195
1	遺跡情報の事前収集	195
2	地表観察の方法と記録	198
	コラム 山林寺院と山城	203
3	試掘・確認調査による把握	201
4	調査計画の策定と安全管理	201
◆	縄張り図の作成方法	204
第3節	城館遺構の諸要素	206
1	曲輪	206
2	区画・防御施設	208
3	建物	212
◆	石切丁場	216
	コラム チャシとグスク	219
	コラム 城館と庭園	220

第4節	発掘方法と留意点	221			
	1 区画・防衛施設の発掘	221	3 石垣の調査	224	
	2 曲輪・建物の発掘	222			
第5節	遺物の整理	228			
	1 遺物の種類	228	3 武器・武具	229	
	2 土器	228			
第6節	調査成果の検討	230			
	1 遺構の検討	230	3 調査成果の総合的検討	232	
	2 遺物の検討	231			
第VI章	生産遺跡の調査	233			
第1節	窯業遺跡	234			
	1 窯業遺跡概説	234	4 発掘方法と留意点	247	
	2 発掘調査の準備と計画	237	5 遺物の整理	250	
	3 窯業遺構の構造と諸要素	239	6 調査成果の検討	252	
	コラム 焼土坑の見分け方	240	コラム 最北端と最南端の 須恵器窯	243	
第2節	製鉄・鍛冶遺跡	255			
	1 製鉄・鍛冶遺跡概説	255	4 発掘方法と留意点	263	
	2 発掘調査の準備と計画	257	5 遺物の整理	266	
	3 製鉄遺構の構造と諸要素	259	6 調査成果の検討	268	
	コラム 近世たたら床釣り	270			
第3節	鑄造遺跡	271			
	1 鑄造遺跡概説	271	4 発掘方法と留意点	275	
	2 発掘調査の準備と計画	271	5 遺物の整理	277	
	3 鑄造遺構の構造と諸要素	272	6 調査成果の検討	277	
第4節	製塩遺跡	278			
	1 製塩遺跡概説	278	4 発掘方法と留意点	282	
	2 発掘調査の準備と計画	280	5 遺物の整理	283	
	3 製塩遺構の構造と諸要素	281	6 調査成果の検討	283	
第5節	玉作り遺跡	284			
	1 玉作り遺跡概説	284	4 発掘方法と留意点	285	
	2 発掘調査の準備と計画	284	5 遺物の整理	287	
	3 玉作り遺構の構造と諸要素	285	6 調査成果の検討	288	
第6節	農業関係遺跡	289			
	1 農業関係遺跡概説	289	3 発掘方法と留意点	290	
	2 発掘調査の準備と計画	290	4 調査成果の検討	291	
	コラム 溜池と淡水漁労	292			

第7節	その他の生産遺跡	293
	コラム 方言がそのまま遺跡名に	295
	コラム デジタル写真の保存	296

第Ⅷ章 その他の遺跡の調査 297

第1節	貝 塚	298
	1 貝塚概説	298
	2 発掘調査の準備と計画	298
	3 発掘方法と留意点	300
	4 遺物の整理	302
	5 調査成果の検討	302
	コラム 南の貝製品	303
第2節	洞穴遺跡	304
	1 洞穴遺跡概説	304
	2 発掘調査の準備と計画	304
	3 発掘方法と留意点	305
	4 遺物の整理	306
	5 調査成果の検討	306
	コラム 湿地遺跡	307
第3節	道路・交通関係遺跡	308
	1 道路・交通関係遺跡概説	308
	2 発掘調査の準備と計画	309
	3 道路の構造と諸要素	310
	4 発掘方法と留意点	311
	5 調査成果の検討	312
第4節	庭園遺跡	313
	1 庭園遺跡概説	313
	2 発掘調査の準備と計画	315
	3 発掘方法と留意点	315
	4 遺物の整理	317
	5 調査成果の検討	317
第5節	祭祀・信仰関係遺跡	318
	1 神社	318
	2 経塚	320
	3 山岳信仰遺跡	321
	4 その他の祭祀・信仰遺跡	323
	コラム 近代遺跡と発掘調査	324

第Ⅷ章 遺跡の保存と活用 325

第1節	発掘調査に求められること	326
	1 発掘作業と整理等作業	326
	2 報告書に求められること	327
第2節	埋蔵文化財の保存と活用のために	328
	1 基本的な考え方	328
	2 保存と活用のありかた	328
	3 今後に向けて	329

英文目次	330
図 版	333
参考文献	341
図表出典	346
索 引	363
おわりに	406